

## 別記様式

## 議 事 録

会議の名称	令和2年度第2回岩倉市男女共同参画基本計画推進委員会
開催日時	令和2年10月6日(火) 午後1時30分から4時まで
開催場所	岩倉市役所 7階 第2・3委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	出席委員：日置委員、杉浦委員、村平委員、関戸委員、 水越委員、寺澤委員、山田委員、小川委員、 富委員(福祉課長)、神山委員(商工農政課長)、 石川委員(学校教育課長) 欠席委員：千村委員、濱田委員、伊藤委員(秘書企画課長)、 原委員(健康課長) 事務局：小松協働安全課長、須藤統括主査、 桑野主任、大嶋主事
会議の議題	・報告事項 (1) 次期岩倉市男女共同参画基本計画策定に係るアンケート結果について 【資料2】 ・協議事項 (1) 次期岩倉市男女共同参画基本計画骨子案について 【資料3】
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他( )
会議に提出された資料の名称	【資料1】岩倉市男女共同参画基本計画推進委員会委員名簿 【資料2】岩倉市男女共同参画に関する市民意識調査 調査結果報告書(速報) 【資料3】岩倉市男女共同参画基本計画2021-2030 骨子案
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	なし
その他の事項	議事録作成者 桑野

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 あいさつ

日置委員長よりあいさつ

2 報告事項

（1）次期岩倉市男女共同参画基本計画策定に係るアンケート結果について

【資料2】を用いて事務局より説明。

委員 各年代の人口比率はどうなっているのか。

事務局 アンケートの抽出基準日である6月1日時点で、アンケート対象者18歳以上の人口に占める各年代の割合は、10・20代が15.6%、30代が16%、40代が19%、50代が16.3%、60代が12.8%、70代以上が20.3%となっています。

委員 ということは、50代では16.3%に対して21.8%と5.5%多く、70代以上では20.3%に対して24.4%と4.1%多く回答されているとのことだが、今後は年齢によって加重平均をとって分析をしていくのか。

事務局 今後計画を策定する上では、各年代の方がどのような回答をされているかも踏まえて分析をしていきたいと考えています。

委員長 高齢者の定義として、65歳からを前期高齢者、75歳からを後期高齢者となるが、高齢者を対象とした施策を考えるために、アンケート結果を高齢者の区分に分けて分析することはできるのか。

事務局 今回のアンケートでは年齢を年代毎に回答をさせていただいているため、高齢者の区分に分けて集計することはできません。

委員 年齢別での男女比は把握しているのか。

事務局 本日の資料は速報としてお示しをしたものであるため、年齢別での結果は把握していないが、今後はお示しすることもできると考えています。

委員 有効回答率24.8%というのは、一般的な回答率なのか。

事務局 協働安全課で同時期に実施した災害に関する計画を策定するためのアンケートの回答率は約50%となっており、比較すると24.8%というのは低いものとなっています。防災に関する内容というのは、皆さんが興味をもっている内容ですので、高い回答率となったのではないかと考えられます。男女共同参画に関しても、より多くの方に興味を持っていただけるよう引き続き周知をしていきたいです。

委員 アンケートの対象者が無作為抽出とのことだが、男性と女性の回答率に大きな違いがあり、これは単に女性が男女共同参画に興味を持っているという事なのか。または、女性のほうが時間に余裕があるため回答率が高くなっているのか原因としてはどのようなことがあるのか。

事務局 アンケート対象者の抽出では男女の割合をそろえ抽出をしているため、おっしゃる通り性別間での回答割合には大きな差が出ています。やはり男性より女性のほう

が興味を持っているのではないかと考えられます。

委員 最近では男性もDVの被害者となることも増えているみたいだが、女性の被害者の方が多く、また男女共同参画の内容は、女性の参画を促進する内容が多くなっているため、女性の方がより回答しやすいのではないか。また、同時期に防災に関するアンケートがあったのであれば、男性はそちらの回答を優先させたため、回答者の性別の割合に違いが出たのではないか。

委員長 男女共同参画関係のアンケートでは回答率が25%を上回ればまあまあといった感想となる。全体の四分の一なので、高いとは言えないが、目安としては十分だと考える。

委員 25%しか回答率がないという中で、アンケートの対象者が2,000人というのは妥当な人数なのか。

事務局 岩倉市では平成28年度に市民参加条例が制定され、計画等を策定する際はアンケート等の市民参加の手続きを実施するよう規定されております。多くのアンケートの対象者数は2,000人となっており、統計的に有効な数字となっています。

委員長 2ページのCの選択肢に「その他」が二つあるが、アンケート用紙を見ないとその他が何を意味しているか分からない。

事務局 上の「その他」は、会社・組織へ勤務している人の勤務形態としてのその他を示し、下の「その他」は年金受給者など全体としてのその他を表しています。この報告書の記載ではわかりづらいので、修正いたします。

委員 同じ質問の選択肢として、「上記「1～3」の家族従事者」とあるが、上記「1～3」が何を表すかわかりづらいので、こちらも修正したほうがいいのではないか。

委員 5ページの間2の各分野での男女の平等感について、施策の実施効果を検証するために、過去の結果と比較をしたほうがいいのではないか。

事務局 岩倉市としてこういったアンケートを実施するのが初めてなので直接比較することはできません。ただし、県のアンケート内容を参考にした設問となっていますので、県の過去の結果と比較することはできます。

委員長 アンケートの結果を国・県と比較する際は、特に国との比較が重要となる。愛知県は改善してきたといえ、まだまだ全国と比較して男女共同参画の意識が低い地域性なので、より高い目標を掲げるためにも、是非国との比較を重要視してもらいたい。

委員 この報告書は速報とのことなので、今後クロス集計などを実施すると思うが、会議の場でプロジェクターを活用し、必要な分析を全体で共有出来たら、計画の検討も有意義に進むのではないか。

事務局 分析等が進んでまいりましたら、そのように全体で共有ができるよう準備をしていければと考えています。

委員 DVに関して、9ページでDVに関する相談窓口の認知度が出ているが、知っている、知らないが半々という結果になっている。また、知っている人の中での認知度が一番高いのは警察という結果になっているが、身近な市の相談窓口を利用せず、直接

警察に頼っているということか。

事務局 男女共同参画基本計画の一部をDV防止計画に位置付けていますが、DVの担当課は福祉課になります。相談窓口よりも警察に駆け込んでいる人が多いという現状からの発言かと思いますが、一概に相談窓口の相談機能が不十分なことが原因ではないと思いますので、相談窓口での相談がしやすいように計画に落とし込んでいけたらと思います。

委員 10 ページの問5の選択肢として、学校や家庭での子ども達に対する教育を行う選択肢はあるが、罰則の強化以外に高齢者の暴力など成人への防止策が見えてこないのだが。

委員長 アンケートも終了してしまっているが、事務局から何かあるか。

事務局 成人向けの施策としては、DV被害者の中でも相談をされてない方もいる状況ではあるので、相談窓口の充実を図っていくことが一つの方法となるかと思います。やはり窓口があるという周知も必要になってくるかと思いますが、警察や市内部の関係部署との連携を図っていくことが重要になってくるかと思います。

委員長 先進国でもまだ25%くらいの女性はDVを受けているという事を考えると、8割以上の人がDVの経験がない岩倉市は幸せな町だと感じる。最近では、男性のDV被害者も増えてきているが、男性が妻や恋人からの暴力を心情的に他人に相談できないといった理由で表に出てこない場合も多くあると思う。このアンケート結果で男女別の結果を記載することで、男性もDVの被害にあうので、相談することが恥ずかしいものではないと示すことができたらよいと思う。

委員 男女共同参画のアンケートでDVに関する質問をしたため、実情よりも低い数値になったのではないかと思う。男性のDVの実情を知りたいのであれば、男性に的を絞ってアンケートを実施すればよりの確な回答が得られたと思うし、今回の結果を鵜呑みにしてはいけないと思う。

委員長 まさにそれは統計が陥る罠であって、結果だけを鵜呑みにするのではなく、その結果がどういう背景で出てきたのか、岩倉市として読み解いていくことが重要とってくる。

事務局 前回の改定の際には、実施していませんでしたが今回の計画策定では、DV防止計画に位置付けられた目標の検討について、DV防止の担当課の職員も出席し、現状の把握をしつつ計画を策定していきたいと考えています。

委員 12 ページの問8で「制服のスカートやスラックスを自由に選択できるようにする」が全体の3番目に多くなっているが、小中学校において近々に対応は可能なのか。また、検討を進めているのか。

委員 現状で検討を進めてはいないが、制服の自由化については課題としては認識している。

委員長 制服の自由化などは学校単位で決まっていくのか。

委員 教育委員会からの問題提起はあるが、最終的に決定するのは学校となる。

委員 13 ページの間 10 では 32.5%の方が「家庭生活を優先している」と回答しており、感覚的に多く感じてしまうが、年齢層での加重平均がかかっているのか。

委員長 年齢だけでなく、性別によっても優先度が変わってくるが、フルタイムの仕事をしながら、家庭を優先する男性も増えてきている。

委員 捉え方によるかもしれないが、まさに自分はそうではないかと思う。夫婦共働きだが、職場と自宅が近いので、晩御飯をつくり一旦家に帰り、また仕事に戻ることもあるので、家庭を優先しているとも言える。確かに、回答された方は年齢の高い方が多いので、家庭を優先していると回答した人が多いかもしれないが、その感じ方は、個人の尺度になるので、実際は多いのかもしれない。

委員長 世の中全体としては、家庭生活を重視しようとの動きになっている。公務員でも男性が管理職になりたくないという人が増えてきている。給料が増えないのに責任だけが増えていく状況からか、名古屋市でも課長級以上への昇格試験へ手を挙げる職員が少なくなっているというので、価値観も変わってきているのではないかと。

委員 家庭生活を優先している割合が多いというのも、コロナ禍で在宅ワークが増えているのも理由の一つではないか。通常の状態とは違うので、報告書のどこかにその記載も入れたほうが良いのではないかと。

委員 同じく問 9、10 で「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を両立したい」と考えている人は、23.4%もいるのに、実際実現できている人は 6.5%と理想と現実に大きく乖離が発生している。こういった分野が制限要因として、理想の状況にできていないかを分析できれば面白いのではないかと。

事務局 この設問で期待したことは、いろいろ両立したいけど一つの分野しか優先することができず、ワーク・ライフ・バランスを図ってくためにどのように施策を組み合わせるかを議論するための材料と考えていたが、そのような分析ができるのか一度相談してみます。

委員 12 ページに戻るが、制服の自由化について、コロナ禍というのが理由だと思うが、岩倉中学校の生徒が常時ジャージで生活している。ぱっと見た感じ男女が分からなくなっており、ウィズコロナの時代ではこういった状況も普通なこととなってくると思うので、こういうことが制服自由化の一つのきっかけになってくるのではないかと。

委員 より効果的なアンケート結果を導くためには年齢層をしぼって実施したほうが良いのではないかと。国勢調査でもインターネット回答が導入されており、若者に対してのアンケートではそういうことも取り組めばもっと高い回答率となったのではないかと。

委員長 男女共同参画の分野は子ども、子育て、教育から高齢者の問題まであらゆる場面で考えることが一つの理念となっているので、全世代を対象に実施している。年齢別で

アンケートを実施した場合、他との比較やクロス集計も難しくなるため男女比の調整のみを行っているのではないかと。

### 3 協議事項

#### (1) 次期岩倉市男女共同参画基本計画骨子案について

【資料3】を用いて事務局より説明。

委員 骨子案として、前回の計画から新たに施策を追加したり、施策の内容を追加しているかと思うが、計画内容が増えるばかりで大変だと思うので、逆に成果が出て役目を終えた施策はないのか。

事務局 施策の成果が出ているかは、前回の会議でお示した成果指標であったり、達成度で判断することしかできません。現状、施策全体として計画が達成されているものはないため、減らした施策はないという状況にあります。今後、取り組み内容を踏まえ、計画の素案の検討の際に、施策の統合についても委員の皆様と議論ができればと考えています。

委員 もう一步議論を進めると、施策の成果が出ないというのは、計画そのものではなく、施策の実施の在り方に問題があるのではないかと。成果を出すために施策の実施の在り方を議論したほうが良い気がする。

委員 1 ページの図の愛知県の DV 防止法に基づく計画の名称は、配偶者からの暴力防止及び被害者支援基本計画ではないか。また、新計画の骨子案の基本目標 4 で多様と様々と似た意味の言葉が使われているが、意図して使い分けをしていないのであれば統一した方がいいのではないかと。加えて基本方向 4、取り組むべき施策(2)で障害者の害はひらがな表記が正しいのではないかと。

委員 ひらがなでお願いしたい。施策の名称について、「障がい者の生活の安定と自立のための支援」としたほうが分かりやすいのではないかと。また、基本目標 5 の基本方向で女性・子ども・高齢者等とあるが等とは何を表すのか。

事務局 男性も含むという事で等をつけています。

委員長 今回、施策名に加えられた若年層への性暴力というのは、デート DV を表しているのだと思うが、若年層も基本方向の等に含まれているということではないかと。

事務局 おっしゃるとおりです。

委員長 愛知県のプランはタイトルに 2020 とあるが、2020 年からの何年計画となっているのか。

事務局 2020 年までの 5 年計画となっています。

委員長 という事は、県の計画と市の総合計画は過去のものとなるという事か。

事務局 市の総合計画に関しましても、今年度で計画期間が終了する事とはなっており、この場ではまだ詳しくお話することはできませんが、男女共同参加分野での大きな方針変更はありませんので、その旨だけご報告させていただきます。

委員長 国はSDGsの取組みを推進しているが、例えば基本目標1、基本方向1の(2)を「学校教育を通じた男女共同参画社会とSDGsの理解」にするなど、取り組むべき施策にもSDGsという文言を入れていただけたらと思う。また、基本目標1、基本方向3、(2)でモラハラやアカハラなど様々なハラスメントがあるので、「あらゆるハラスメントの防止の啓発」とするのも一つだと思う。続いて、基本目標2、基本方向3、(1)でワーク・ライフ・バランスという言葉が出ているが、働き方における性別間での違いをより是正するために国の第4次基本計画では男性中心型労働慣行の見直しを打ち出している。一度、岩倉市の基本計画でも取り上げるのか、検討をしていただけたらと思う。最後になるが、総理大臣が新しくなりデジタル庁の設置に向けて動きがある中、社会全体としてデジタル化が進んでいく流れとなると思うので、AIやIoTを活用した取組みも考えていけたらと思う。

委員 基本目標1、基本目標3、(3)で「国際理解と国際交流の推進」とあるが、今は国際交流というよりは多文化共生と言った流れになっているのではないか。

委員 計画で多様な、様々なという言葉でまとめられていることが多いが、具体的な記述にしたほうが施策を実行する上では、難易度が下がるのではないかと思うので、出来る限り多様なという言葉を使わないという事も含めて検討をしていただきたい。

事務局 計画をご覧いただくと分かる通り、男女共同参画の計画では幅広い内容を網羅しています。毎年報告書を作成する際も複雑になっていることもありますので、少しでも整理ができたらと考えています。

#### 4 その他

ゲームで体感！SDGs～協働からマルチパートナーシップのまちづくりへ～の紹介

以上